

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 8月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470501168		
法人名	医療法人社団 和恒会		
事業所名	グループホーム ふたばの家		
所在地	広島県呉市広白石4丁目1番11号 (電話) 0823-76-4566		
自己評価作成日	令和 3年 7月 7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470501168-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年7月29日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

職員間の情報の提供・話し合いが出来ており、一人ひとり利用者様の自立・見守り・介助の必要性を見極めながら介護にあたっている。利用者様にゆっくりと過ごして頂けるように各自気を配っており、お手伝いも表情を見ながら声を掛けさせて頂いている。また入浴は曜日を決めずゆっくりと入っていただいている。また季節に合わせて入居者の皆様に展示作品を作ってもらったり行事を行ったり、外出レク等で季節を感じて頂き気分転換を図っている。医療に関する面においても母体の医療法人の医師や看護師と連携をとることにより、日々の体調管理、病気の早期発見に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎日2度の買い物や3か月に一度の遠出など外出の機会を作ってきたが、コロナ感染予防の観点から、日常的にはテラスやベランダ、屋外階段の昇降や屋上の散策、遠出は花見や紅葉狩りなど工夫をしながら取り組んでいる。入浴は毎日可能で、風呂好きな方は週に4、5回入り、拒否のある方もタイミングを図りながら柔軟な対応をし入浴している。食事は3食手作りで、予め利用者から好みや希望を聞いておき、季節に合わせた旬のものを提供している。利用者には調理師の経験者や料理の達者な方がおられ野菜の皮むきや千切り、配膳盆やテーブル拭き、下膳など役割分担をしながら食事を楽しんでいる。医療法人が運営しており訪問看護や医療との連携が充実している。高齢者の複合施設の中にグループホームがあり、施設として防災や訓練に取り組み、地域の避難所の役割も果たしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人の理念とは別に、職員と話し合っ て独自の理念をつくり、取り組んでいる。	法人理念とグループホームの理念を事務所に掲示し、職員間で共有を図っている。グループホームの理念に基づく目標を職員で策定し、月度のミーティングで振り返りを行っている。常勤職員は毎日目標を定めてケアを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会長と認知症家族の会世話人に懇意にして頂き常に情報交換している。施設の行事に地域の方々をお招きしたり、ボランティアの受け入れも行っている。	演奏ボランティアやフラダンスの披露など地域のボランティア団体の来訪がある。自治会長の紹介で報恩講などの地域行事への参加や認知症家族の会の世話人の紹介による家族の会の開催する大会や研修へ職員が参加している。大学の実習生の受入や保育園との交流は感染予防の観点から中断している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で資料を配ったり勉強会を行っている。高齢者の相談窓口や法人内に認知症疾患センターもあり地域の方々との相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の現状や問題を報告し、一緒に考えて頂き意見交換し、サービス向上に繋げている。	災害時の対応について、地域からは井戸の活用の情報提供を受けたり、地域の避難所としてのグループホームを含む施設の活用について確認している。感染予防に関する取組みについて、地域や地域包括支援センターと情報交換しながら取り組んでいる。	コロナ禍で会議の開催が難しい時期が過ぎれば、家族の参加による運営推進会議の開催を期待する。関係者だけでなく家族の参加を得ることで家族目線を踏まえたケアの充実につながると思われる。また、運営推進会議の内容は、毎月のニュースと共に家族に周知されると、家族から意見をいただける契機となる。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加依頼の他、会議の報告を市、地域包括センターに行っている。	地域包括支援センターや市の担当部局からの入所希望者の相談や紹介があり、認知症に関わる相談については法人で運営している「認知症医療疾患センター」を通して対応している。感染予防対策や介護保険制度・報酬改定など法人として市と連携し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者の安全の為、玄関の施錠の実施している。年に2回研修会を行っている。</p>	<p>毎月法人内介護部門の管理者で開催する会議にて、3か月に1回「身体拘束廃止委員会」を開催し、実施の有無、繋がる行為の点検、研修の実施状況を確認している。事業所では、年間の研修計画に沿って年2回研修に取り組んでいる。言葉づかいについて管理者が中心となって抑制につながらないように指摘し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修を行い虐待防止の徹底を行っている。利用者が不快にならないように声掛けの仕方に注意し小さな問題から解決していけるように心掛けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>毎年施設内研修には取り組んでいる。活用事例は今の所ないが、該当する方がもしあれば積極的に活用してみたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結時には様々な情報が一度に契約者に入る為説明後に何か聞いておきたい事や伝え忘れ等がないか必ず一緒に確認している。改定の際は文書で通知し疑問がないか確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者や家族の意見は普段の生活の中で出来るだけ聞き取るようにしている。意見箱を施設内に設置している。</p>	<p>窓越しの面会時や物品などの届け物の際に、職員が家族の意向を伺うようにしている。感染予防にて外出の機会が減る中で、外階段を使った訓練に取り組んだり屋上散歩に取り組んでいる。利用者には声掛けにより意向を確認しながらケアを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の申し送りや毎月のミーティングの際に出た意見をできるだけ反映させるように働きかけている。</p>	<p>日ごろから職員が提案しやすい雰囲気を作り、都度、意見を求めたり情報提供をしている。洗濯機の容量やタオルの保管量の増量などの設備の改善や入浴の人数や不潔行為に対するケアの改善に繋がったことがある。希望休は月に3日、職員同士の都合を反映させた勤務となっている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>定期的に面接を行い、働きやすい環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修情報を回覧板などを使って確認等行っている。また法人内の他施設が行っておりそちらの方への参加も呼びかけている。また毎月テーマを決めて研修会を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同じ法人内、ふたばホームの管理者、職員と交流し、意見交換している。また、同一建物内の他施設の管理者とは常に連携している。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>体験入居をしてもらい様子観察し、本人の要望に傾聴し、対応するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>特に入居前のご家族は、病院や施設の入退院（所）に関わっている事も多く疲弊している印象を受ける。まずはゆっくりと本人の様子や家族の困っていることに傾聴し、加えてご家族が一番無理をしない様にと声掛けを行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>複合施設の利点を活かして多方面にわたり、利用できる施設を相談させてもらっている。他を紹介することもある。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>スタッフは掃除や洗濯、食事作り等、本人の状況を踏まえた上で声掛けを行い、一緒に行っている。毎日の日課を一緒に行う事で変化により早く気付く事が出来ている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>細かい点についても家族と相談し了解を得ながら支援している。家族との外出、外泊などの支援も行っている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>9時から17時まで自由に面会できるようにしており、遠方からも来ていただいている。また、馴染みの美容院などは家族様に協力して頂いている。</p>	<p>面会は窓越しの面会を行っている。遠方から友人が訪ねて来たこともある。手紙を書く支援も行っており、甥から自分の住所を書いたはがきを預かったこともある。感染前は、家族のところへの外泊や馴染みの理美容へ行くこともあったが、現在外泊は控えてもらい、出張理美容を利用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	孤立しないように声掛けし、利用者同士、親しい関係ができるように支援している。ホーム内はグループが出来ているが、他者とも行事等で交流できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ法人での転居というケースもあり、そういったご家族とは関係性が続きやすい環境ではある。以前入居されていた方のご家族とあってお話を聞いたりということもある。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の業務の中からも一人ひとりの意向や希望が隠れており、意思表示の出来る方には家族と協力してできる限りの対応をしている。	入浴時など利用者と1対1になる時は、意向や希望を確認しやすいので、趣味や嗜好、過ごし方の希望などを聞いている。家族に電話することの支援やアルバムを持ってきてもらうなどに繋がったことがある。個別の買い物や外出の支援ができた利用者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の家族からの話は勿論、入居して本人からでてくる言葉を大切にしている。医療機関や介護施設等の情報からも経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の支援状況と職員の意識付けの為にチェックリストを作成し把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>適宜家族の訪問時に管理者が話し合いをしている。医療面では訪問看護師にアドバイスしてもらい、月に1回あるミーティングで全職員とケアプランの原案を作成している。</p>	<p>毎月のミーティングには、訪問看護の看護師も参加し、状態の変化のある利用者からモニタリングを実施している。利用者ごとの不穏時の対応、排せつ頻度やタイミング、入浴の声掛けや注意点等について確認をし、介護計画に反映している。介護計画は家族の来所時や書類送付時に同意をもらっている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録を日勤と夜勤で記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>面会に中々来れない方や、家族が高齢である為個人の物品の買い物が難しいなどのケースには事業所側が積極的に代行で買い物をする等行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>民生委員・自治会長・ボランティア認知症家族の会会員の方等の協力を得ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院の担当医の適切な医療を受けられるようになっている。</p>	<p>内科や眼科など主治医の継続を希望する場合は家族支援により受診し、希望に応じて往診医師の紹介を行っている。法人の医療機関の受診は、事業所の職員による外来受診としている。歯科についても月に1度往診の機会と歯科衛生士の来所の機会があり、臨時に治療することも可能な体制としている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師とは日常的に連絡を取り合って利用者の健康管理を行っている。複合施設内の看護師にも協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会可能であれば入院先に見舞いに行き情報把握を行い、退院時カンファレンスに参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応については同意書で説明し、状態に応じ話し合いをしている。家族が延命治療を望まない場合は関係機関と相談して看取りを行う。	看取り実施経験はないが、現在初めての看取りを行っており、主治医を往診医に変更し、連絡方法や手順など連携方法を確立し実践している。終末期の対応研修は看護師が実施し、看取り経験のある上階併設のグループホーム職員からアドバイス等を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修を年に1回は必ず急変時対応に備えている。マニュアルを作成し、利用者の状況に応じて対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導のもと、施設全体で年2回訓練を行っている。当施設は災害時に一時避難施設として使用して頂く協定を結んでおり、法人内の協力と地域との体制作りがある。	複合施設全体で、消防署の指導の下、夜間想定も含め年2回災害時の訓練を実施しており、マニュアルの見直しもしている。水は施設で備蓄し、食料は病院で備蓄している。地域の避難所として自治会と協定を結んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛けの内容等、プライバシーを損なわないように気を付けている。排泄時や入浴時には羞恥心に配慮している。	羞恥心に配慮した言葉となっているかなど、管理者が中心となって職員相互に指摘が行えている。入浴時や排せつ時には、できることはしていただき、視線やカーテンの活用等、羞恥心に配慮したケアを行っている。個人ファイルは施錠書庫で管理しプライバシー保護の研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	コミュニケーションを密にとり本人の希望を出来る限り優先させるように努めている。入浴は本人の意思を尊重し入浴日の変更する等の対応もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	健康管理の観点から起床時間や食事の時間はある程度決めさせてもらっているがその他のスケジュールに関しては本人に決定して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容の声掛けをしたり介助の必要な利用者に関しては声掛けや介助をさせて頂いている。本人の希望で美容院に行ったり訪問理美容サービスを利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを聞きながらメニューを決めたり、利用者と職員と一緒に準備し、食事の片づけを行っている。	予め利用者の好みを確認したうえで、旬の食材を近くのスーパーで購入し、3食手作りで提供している。野菜の皮むきや千切り、お盆やテーブルふきなど利用者の参加により食事の準備をしている。梅ジュースやタコ焼きなど利用者と一緒に作ることを大事にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>水分補給は毎食と9時半、15時、19時半に声掛けを行っている。食事は利用者の食事量や好みによって配膳の量を調整している。糖尿病の利用者は主食の量で調整したり、咀嚼の弱い方は刻み食、ミキサー食にしている。食欲のない人には栄養補助食品を使用する事もある。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>利用者に対しては毎食後に声掛けを行っている。介助が必要な利用者は誘導や見守り・介助等行い口腔状態を確認している。また6名訪問歯科による居宅療養管理指導提供を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄パターンの把握に努めている。トイレの場所の分からない利用者には傾合いを見て声掛けをしてトイレ誘導を行っている。</p>	<p>タブレットにより、介護記録を入力することで、排せつパターンを職員が共有することができ、声掛けや起床のタイミングを図っている。夜間ポータブルトイレを使う方が1名おられるが、他はトイレを使用している。センサーを活用するなど夜間においてもトイレで排泄できるよう支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>なるべく排泄の失敗にならず便秘の改善が図られるように下剤の服用量を調整している。排便困難時は腹部マッサージを行ったり水分を摂って頂いている。また朝夕に体操への参加の声掛けを行っている。毎朝の食事にはヨーグルトとバナナを提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>どの方も入浴の声掛け自体は3日に1度行っている。希望のある方にはなるべく選択して頂いたり、入浴拒否している入居者には無理強いしないように努めている。</p>	<p>毎日入浴できるよう準備をしており、風呂好きな方は週4、5回入り、入浴拒否のある方はタイミングを図るなど柔軟な対応にて入浴している。いろいろな話題を提供し、楽しい会話の内に入浴できるよう工夫をしている。冬場は保温の観点から入浴剤を入れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>ホールの消灯時間は決めてはいる が、それ以上部屋でテレビを観 ている分には特に他者に迷惑を かけることのない場合には注 意することなく見守る。昼夜 逆転が見られるなら声掛け等 行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支 援と症状の変化の確認に努め ている。</p>	<p>薬の変薬や新しい薬の処方など あった場合には管理日誌や申 し送りノートに記入し各自情 報を確認するよう努めている。 また服用日より一週間は何か 症状の変化が見られないか重 点的に様子観察する。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>利用者が役割を持ち、生活を 楽しめるように支援している。 季節ごとの行事を行い、気分 転換を図っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	<p>天候の悪い以外には希望者 には外出して頂いている。ま た3ヶ月に一度は外出レクに 行き、外食や弁当を食べたり している。</p>	<p>感染予防の観点から日常的 には、外階段やベランダ、テ ラス、屋上の散歩に限られ る。3か月に1回程度は遠 方に外出していたが、現在 は花見と紅葉狩りのみとな っている。その分、天気の良い 日は外階段や屋上にて日光 浴や外気を感じてもらおう 機会を増やしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じ て、お金を所持したり使え るように支援している。</p>	<p>現金の所持はしていないが 希望があれば、家族の了承 を得て購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>友人にハガキを書く時に住所に確認等を行う支援を行っている。家族の了承のある利用者の方については電話を取り次いでいる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>玄関やホールに季節の飾りをする事で季節を感じて頂いている。トイレが分かり易いように矢印を付けている。温度、湿度には湿度計でいつも気を付けている。</p>	<p>リビング、食堂に十分な広さがあり、地域の方の演奏ボランティアやフラダンスの会場として活用されている。アイランドキッチンが据えてあり、音や匂いなど感じられる造りとなっている。壁には季節を感じられる折り紙が貼られている。トイレ、浴室、玄関等の共用部も十分な広さがある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個人専用の椅子とテーブルがあり、そこで気が合った物同士が談笑して過ごされている。一人でも自由にソファ等に移動されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>馴染みの物を持ち込まれている方も多くいらっしゃいます。また、混乱をきたす利用者様には本人がどういった部屋が安心できるかを優先的に考えている。</p>	<p>事業所の設備としては、エアコンとカーテン、床頭台がある。利用者はベッド、布団、仏壇、箆笥、衣服、机、椅子、テレビなどの持ち込みがあり、利用者と家族の希望する配置をしている。家族との写真や遺影、使い慣れた小物の持参がある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>コップとポットが常時設置されており、自由にお茶を飲用されている。コップに入れて居室に持ち帰られる方も多いおられる。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふたばの家

作成日 令和3年9月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議に家族や利用者の参加がない為、内容が家族等に伝わっていない。	参加していない家族にも運営推進会議の内容を把握してもらう。	参加を御願ひしたり、内容をホームの新聞に簡単な報告を取りまとめて載せる。	2年
2	48	一人一人の力を活かした役割りや楽しみごとが不十分な利用者もいる。	出来る限り個人の日々の楽しみを見つけていく。	コミュニケーションを密に取り楽しみごとを見つけていく。	2年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。